



ごあいさつ

委員長 堀 田 理 恵

山形県PTA母親委員会の活動を皆様にご支援いただき展開できましたこと、心より感謝申し上げます。また、郡・市PTA母親委員会においても、活発に活動していただき感謝いたします。

母親委員会では、「命の尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や、母として何を学び子どもに何を伝えるべきか等々、情報を交換し活動につなげてきました。母親委員研修では、山形県PTA連合会が推進している「親子読書活動」に力を入れようと、学校図書館アドバイザーの五十嵐絹子氏から「親子読書で育むもの」と題しお話を伺いました。読み聞かせを通して親子の絆が深まることや読書による感動が心を育て想像力がつくこと、物語を通して正義や勇気、思いやりを学ぶことができること等、読書の大切さについてお聞きしました。子どもの本離れを防ぐには家庭でも一日5分から10分、親子で読書の時間を持つべきだと感じました。

また、「ネットモラル講習会」に参加し、宮城教育大学教授の鶴川義弘氏による「子どもの携帯持たせる前の約束と必要な設定」と題したお話を聞きました。スマホを持たせる利便性と危険性を考え、親子でよく話し合い、フィルタリングをつけることや使い方の約束を決める必要があること等大変参考になりました。トラブルが起きた場合には、子どもと一緒に解決できるよう親の知識も必要です。親も積極的に学び子どもたちがトラブルに遭わないように見守り寄り添っていききたいと思います。今後も母親委員会では情報を共有し共に学び、母親同士のネットワークを大切にしながら家庭教育力の向上に努めていききたいと思います。



各地区の活動報告

《東田川郡》

- ・定例母親委員会 2回
(ランチを食べながら会食)
- *活動報告
- *情報交換等

《西置賜地区》

- ・定例母親委員会 2回
- *昔語り研修会
- ・母親委員会だより発行
- ・地区P交流会への参加協力

《東置賜地区》

- ・地区P代表母親委員
1名が県P母親委員会
に出席しています。

《山形市》

- ・定例母親委員会 3回
- ・“親学”家庭教育研修(朝陽第一小学校視察研修)
- ・拡大母親委員会1回
講演「親子の笑顔のために」～不登校解決への近道～
講師：菜花 俊 氏
(NPO 法人 親心支援協会理事長)
- ・「マザーズねっとわーく」No.20 発行

《北村山地区》

- ・北村山地区Pとしての活動はないが、村山市P、尾花沢市P、大石田町Pは母親委員会組織があり、各々単位PTAで活動を行っている。
- *「ピーマムむらやま」発行

【母親委員会メンバー】



《米沢市》

- ・定例母親委員会 4回
- *研修会「ポーセラーツ」
- *講演会「思春期の子どもとの繋がり方」
講師：佐藤 学 氏

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会
- ・母の集い(講師を招いて講演会)
「小中学生を持つ親の子育て」
講師：森谷留美子 氏
- ・「母親委員会だより」発行

《西村山》

- ・定例母親委員会 3回
- *研修会
「ラフターヨガ」 平 早苗 氏
- ・代表委員会 3回

《最上地区》

- ・定例母親委員会 2回
- ・地区母親委員会全員研修会年1回
講演：『食』を通していのちのメッセージ
講師：三浦友加 氏(よしもとクリエイティブ・エージェンシー)
- ・代表母親委員会研修及び情報交換会
(萩野学園視察：施設一体型小中一貫校)
- ・「母親委員会だより」発行

《酒田飽海》

- ・母親委員長等会議 2回
第1回 情報交換
第2回 講演「子どもの読書 読み聞かせについて」
講師：佐藤敏行 氏(酒田市立図書館副館長)
講師：加藤美穂子 氏(子どもの読書アドバイザー)
- *「研修報告」発行
- ・酒田飽海PTA研修大会への協力

【視察研修：両国】

《鶴岡市》

- ・母親委員会 2回
第1回(活動方針、情報交換、研修会、等)
- 第2回 研修：「読み聞かせボランティア“本の宝箱”に学ぶ」
*朝陽第一小図書スペース見学
*読み聞かせについて「知る・見る・聞く」
- ・ブロック会議3回
- ・母親委員会だより

《上山市》

- ・母親委員会 2回
- ・研修会、情報交換 1回
講演「成長に必要な食事と栄養」
講師 鍾水弘樹 氏
(徳州会病院栄養管理士)



テーマ「命の尊さ大切さ」

「親子読書で育むもの」～本を読む子は必ず伸びる～

日時：5月30日（土）13：30～14：30

場所：山形まなび館 交流ルーム

講師：五十嵐 絹子 氏（学校図書館アドバイザー）



◆なぜ今「読書」なのか

- ・読書は人類が獲得した文化→ 一生の財産として生きる力や楽しみの素ともなる。
- ・読書は国語力の向上に不可欠→ 国語力（考える力、感じる力、想像する力、表す力）いずれにもかかわる
- ・読書好きの児童生徒ほど教科の学力が高い→ 学力調査の結果から教科の学力に影響を及ぼすことが確認された。
- ・小学校入学前に読みきかせをしてもらった子は、読んでもらわなかった子より読書が好きになる割合、授業が楽しくなる割合が共に高いこともわかった。

◆子どもたちの「本離れ」と成長に及ぼす影響

- ・テレビ・ゲーム・スマホ依存→統計では日本の子どもたちは世界一テレビ視聴時間が長い。1日2時間以上見ている。
- ・早朝から子ども向けの番組があり数も多い。暴力や戦争をテーマにしたゲームも子どもたちの身近にある。
- ・テレビ、ゲーム、スマホに子守をさせる親がいる。ゲームに熱中しすぎると脳の前頭前野(人間らしい脳)の働きが悪くなり認知能力が低下する。(ゲーム脳、電磁波問題、タバコと同様の依存症)

◆読み聞かせ・親子読書が育むもの

- ・感動こそが心を育てる
- ・想像力が生きる力
- ・物語が教えてくれる愛・正義・勇気・思いやり
- ・本の世界へいざなう
- ・読み聞かせは愛の時間、子どもが親を独占する時間（本を通して一緒にいてくれる時間がうれしい）

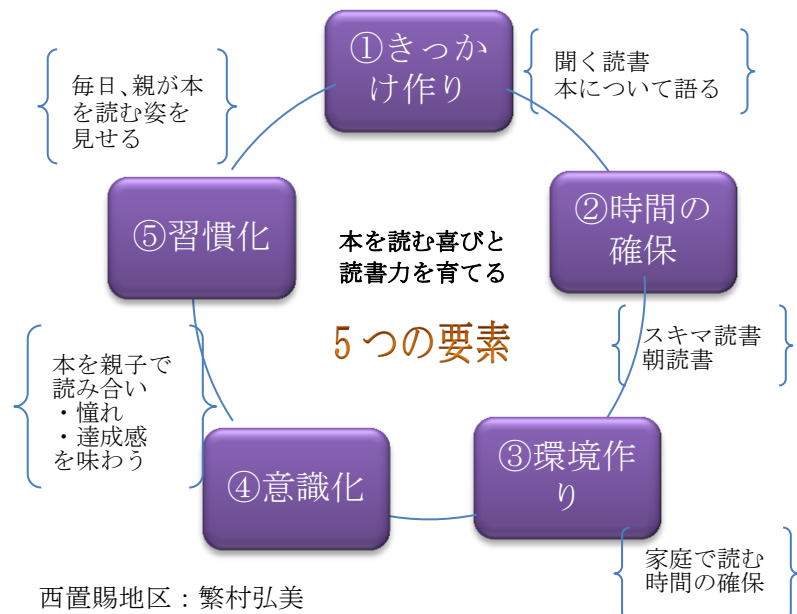
*読書がもたらしたものは・・・

人の心が分かり、言葉で自分の気持ちを表現できる子になる。聞く力、言葉の獲得、集中力、想像力、未知のものを知ろうとする力がつく。

PTAとしてできること

- ・親子読書の取り組み
- ・家庭での読書タイム
- ・地域ぐるみでノーテレビ・ノーゲームデー

◆本を読む喜びと読書力を育てる（5つの要素）



「読書の大切さ」

「本を読む子は学習力がある。学習力がある子は本を読む。」これを聞いたとき、全くその通りだなと思いました。家庭での読み聞かせがどれほど大事か気付いたときにはもう遅く、子どもたちはゲームに夢中で、本を薦めても興味を示してくれませんでした。そういう自分がある本を読まないことにも原因があったんだあと、五十嵐先生のお話を聞いて思いました。今さら遅いかもしれませんが携帯を使用している時間があるならば少し減らして親子で本を読む習慣をつけていきたいなと思いました。

上山市：吉田直美

「親子読書のすすめ」

本に親しむことは、子どもたちの感性や創造性を豊にするだけではなく積極的な行動力が身につくとお聞きし大変参考になりました。

鶴岡市では、市が中心となって親子読書を推進し、活動状況の文集を作成して学校の枠を超え、子どもからお年を召された方にも読書の習慣が根付いているようです。私も、文集を拝見しましたが、親子読書感想文がたくさん掲載されていて、推薦図書の紹介など、関心深い内容でした。五十嵐先生が朗読してくださった「ちょっとだけ」と言う絵本に心が“ほっこり”温かくなり、子どもに優しくしようという気持ちが強くなりました。

一言で親子読書と言っても、なかなか時間が取れないなど、家庭事情は様々ですが、子どもがお父さんやお母さんに読み聞かせすることも十分に親子読書の効果があるそうです。また、子どもにばかり読書を勧めるのではなく親が本に関心を持つ事が豊かな親子の時間への一歩だとわかりました。ゲーム・スマホが当然の社会になっていますが、少しでも文字に親しむ意識を忘れないように生活したいと思います。私も息子も、毎日の忙しさを理由に、なかなか読書の時間をとることができませんが、同じ本を読んでみたり、スポーツ関連の本を読んでみたり、時間を共有できればと思います。感想を話し合い、視野を広げながら、親子のコミュニケーションを深めていきたいです。

最上地区：山田美里

ネットモラル講習会

《ネットモラル・いじめ対策親の会主催》

日時：9月12日（土）14:00～15:30

場所：山形市保健センター視聴覚室

講師：鶴川 義弘 氏（宮城教育大学教授）



～子どもの携帯 持たせる前の約束と設定～

現状

- ・携帯電話の機能は年々便利になりつつあり、所有率も増加傾向にある。低学年の所持率が上がっている。
- ・中高生が利用するインターネットサービスはLINEが多い。

危険性

- ・ツイッターは基本全公開であるが、公開の場との自覚がなく、様々な情報が流出してしまう。インターネットは匿名というのは誤解である。
- ・ゲーム、SNS は高い依存性があり、長時間利用による生活リズムの乱れ、SNS 疲れにより、ネット依存につながり過剰症候群になる可能性がある。
- ・「ゲームは無料」はウソ!! 課金した方が優位なため、高額課金となってしまう。
- ・ワンクリック詐欺に合う可能性がある。

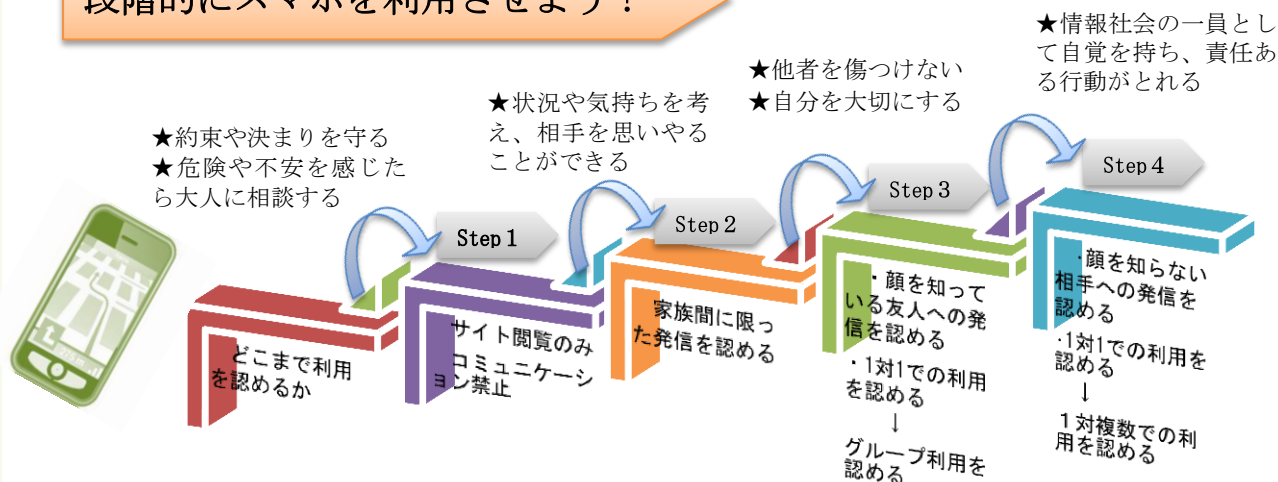
持たせる前に家庭ではどうすべきか？

(1)携帯を持たせる利便性と危険性を検討する

- ・家庭と学校での早めの教育と指導が重要
- ・ネットは実社会と同じ!!状況判断が未熟・経験不足により取り返しのつかないことがないように、大人になるまでの訓練が必要。無料のものは疑うべし、強い自制心、豊かな知識を身につけよう。

18歳になるまでに習熟させるつもりで・・・

段階的にスマホを利用させよう！



(2)子どもに負けるな、よく話し合おう。

- ・最初に使用に関して約束をし、約束を徹底する。
- ・フィルタリングサービスを必ず適用する
- ・スマホは保護アプリを導入し、勝手にいじらせない。
- ・無線LANに接続しない。

(3)子どもの変化に気がつくこと。

- ・月々の料金や明細書をチェックし、無頓着にならない。

(4)困ったら・・・

- ・頼りになる大人、友人、警察、県消費者生活センター、いじめ相談ダイヤル等へ相談すること。

・県警サイバー犯罪対策室
(023-626-0110)
・県消費者生活センター
(023-624-0999)
・県教育センター「いじめ相談」
(023-654-8383)



東田川郡：恩田裕子

《研修後に思うこと》

ネットモラル研修会に参加して、深く考えさせられました。携帯電話は便利ですが、同時にトラブルに巻き込まれることもあり、使い方を間違えないように親子でよく話し合うことが重要だと思いました。分からないこと、困ったことがあったらすぐ専門の方に相談し、保護者も学んでいくことが大切だと思いました。講師の鶴川先生のお話たいへん勉強になりました。

天童・東村山地区：縄野智江

「東京都立両国高等学校附属中学校視察研修」

平成27年6月26日（金）1：20～15：10

○目的：子どもたちのコミュニケーション能力が低くなったと言われる今、生徒が高いコミュニケーション力を身につけている学校の視察をし、家庭教育の役割について研修する

○校長先生のお話より

生徒がより良い授業を受けられるような時間の使い方や授業の質の向上に学校全体で取り組んでいます。詰め込むのではなく生徒自身が学習を身につけられるようにするため生徒同士で話し合い、協議し答えを探していける授業ができるように努めています。

○感想

生徒同士が1対1又はグループで話し合い、協議し、考え、答えを出す事で高いコミュニケーション力を身につけられるのだらうと思いました。

東置賜地区：丸山美香



創立115年という歴史の重みを感じさせる校長室にて大井校長先生から学校のご説明を頂きました。その中で「教えない英語授業」と「2014年東大合格者63名」は都立にして超難関の中学校の実績であることもありますが、校長先生自ら優秀な先生をスカウトし、ハイレベルの授業をおこなって、学校全体が「落ちこぼれを作らない、教科嫌いをなくす」という信念のもと日々、指導にあたる先生方と学校が試行錯誤し生徒を熱い気持ちでサポートしている点に大変驚くと共に感動いたしました。

実際に英語の授業を見学させて頂きました。英語の授業を受けている姿は海外の学校に居るような錯覚に陥るようでした。それは、先生はもちろん生徒たちも、自分の意見グループの意見等は全て英語で話されていたからです。使っている教科書は、しっかりと読み込まれていてやはり、授業に対しての生徒たちの学ぶ姿勢と日々の英語授業の楽しさがしっかりと身についている感じでした！

これからの日本を背負うには、英語の力は必須という考え方から短期の海外留学があるのもコミュニケーション力向上への大きな足掛かりになっているのかと感じました。

北村山：矢作孝子

「第47回東北ブロック研究大会亘理・山元大会」【平成27年10月3～4日】

主題： 「蘇る大地ふるさとの復興と共に子どもたちに明るい未来を！

親子の絆 PTAの絆 地域の絆。今も、そして、これからも」

【日本PTA東北ブロック研究大会亘理・山元大会に参加して】

私は、第3分科会「健全育成」に参加しました。基調講演では(株)エフエム仙台アナウンサーである名護ひとみさんからラジオ制作の裏側のお話を聞くことができました。その中でも印象的だったのが東日本大震災直後からの番組制作のお話です。

初めは被害状況や避難所の情報をメインに放送していたようですが、個人のメッセージや要望を携帯電話で受けて放送をしたり音楽を流したりしたそうです。名護さんの携帯番号を流すというのは前代未聞のことで、音楽ひとつ流すにしても歌詞の内容や効果音にいたるまで配慮するなど、当時の名護さんをはじめスタッフの方たちの番組作りに対する葛藤と決断は私たちには想像もつかないことだったと思います。その思いを聞いたことはとても有意義な時間となりました。

同じように宮城を元気づけようと今でも「歌」という形で復興を支えている歌手の「ひまり」さんのライブもとても感動しました。これからも「絆」が生まれる歌を届けてほしいと思います。パネルディスカッションでは東北各地域や各学校の取り組みや課題を聞く事ができて視野が広がるとともにとても参考になりました。

今回この研究大会に参加して今まで知り得ることのできなかったことを多く知ることができました。この経験をもとにこれからのPTA活動がよりよくつくられるよう協力をしていきたいと思います。

酒田鮑海：白畑弘美

【開会行事：アトラクション】



編集委員

堀田理恵(山形市)/丸山さつき(米沢市)
菊地由美(西村山)



あとがき

今年度も、視察研修では母親委員同志の親睦をぐっと深める事が出来ました。また、子どものちょっとした変化に気付けるのも、常日頃の家族同志での会話が大切と改めて気付かされ、沢山学んだ1年でした。

副母親委員長 丸山さつき